

実践のまとめ（第2学年 英語科）

令和3年11月2日第5校時
南魚沼市立八海中学校
教諭 石澤 彩

1 研究テーマ

**場面や状況を適切に判断し、コミュニケーションを図ろうとする生徒の育成
～自分の思いや考えを伝える活動の充実を通して～**

2 研究テーマについて

(1) 研究テーマ設定の意図

学習指導要領（平成29年3月告示）では、育成を目指す三つの柱である「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」及び「学びに向かう力、人間性等」のそれぞれに関わる目標を定めている。その中で、「思考力、判断力、表現力等」の育成に関わる目標として、「コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。」とある。円滑なコミュニケーションを図るために、目的や場面、状況を理解した上で、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮し、外国語で表現し伝え合う力を育成するための学習過程の改善・充実を図る必要がある。既習事項を活用し、状況を整理した上で「話すこと」や「書くこと」で相手との意思疎通ができる力を養っていく必要がある。

この点を踏まえ、「生徒に目的意識を明確に持たせること」「最終目標から逆算し、目標達成のために必要な練習を段階的に仕組むこと」「単元計画と評価基準を生徒と共有し、生徒が学習活動の振り返りができるような評価をしていくこと」に焦点を絞り実践していきたい。

(2) 研究テーマに迫るために

① テーマに基づき自分の思いを話す→書く→振り返る帯活動を実践する

相手とコミュニケーションを行うためには、まず自分自身の考えや思いをしっかりと形にする力が必要である。そこで、イメージマップなどの思考ツールを有効活用し、自分の考えをどの順番で、どんな表現を使って伝えれば良いのかを整理し、それを基に英語で話したり書いたりする練習を、単元を通して帯活動として位置付ける。また、良く言えた、良く書けた表現、反対に言いたくも言えなかった表現をその場や、生徒のライティングから取り上げ、全体で共有し、次の活動に生かしていく。

② 生徒の学習改善・教師の指導改善につながる評価を実施する

授業で繰り返し学習し、練習してきたことがパフォーマンステストで生かせるような経験を積めるようにする。単元指導計画を工夫し、ゴールを意識してバックワードデザインで毎時間の授業を構成する。パフォーマンステストの評価についても、ループリックを活用し、生徒と評価基準を共有し実践する。評価の内容が生徒の学習改善・教師の授業改善につながるように、毎時間の指導と評価を一体化した指導を積み重ねていく。

③ 常に相手を意識した言語活動を行う

コミュニケーションの目的・場面・状況を明確にした言語活動を行う。誰に伝えるのか、どんな内容を伝えるのか、なぜ伝えるのかを明確にする。そのために、場面設定を具

体的にし、生徒が状況を踏まえて適切にコミュニケーションを図れるようにする。また、相手意識を持たせるために、ペア活動やグループ活動を効果的に取り入れていく。話す活動では、「アイコンタクト」「相づち」など、聞き手を踏まえたポイントは年間を通してさまざまな場面で意識的に取り組んでいく。また書く活動では、情報を整理し、相手を読みやすい文章を書くことができるよう指導していく。

(3) 研究テーマにかかわる評価

- ① 生徒が単元末の自己評価で、内容を精選し、情報を整理して伝えられたと記述した。
(振り返りシート)
- ② パフォーマンステストで、「伝えるべき内容や状況を踏まえ、適切にコミュニケーションを図った」評価項目でA評価の生徒が80%以上になる。(パフォーマンステスト)

3 単元と指導計画

(1) 単元名

Our Project 5 こんな人になりたい (SUNSHINE ENGLISH COURSE 2 開隆堂)

(2) 単元の目標

選んだ人物について、情報を整理し、聞き手に分かりやすいスピーチをする。

スピーチの内容を基に、読み手に分かりやすいポスター記事を書く。

(思考・判断・表現)

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>[知識]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表に必要な表現や、文章の三段構成を理解している。 <p>[技能]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が選んだ人物について、その人がどんな人物か、その人物の印象的なエピソードなどを、簡単な語句や文を用いて、またはそれらを正確に用いて話したり書いたりする技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が選んだ人物について、Beginning/Body/Endingを意識し、相手に伝わるように情報を整理して伝えている。 ・どんな情報を選択すれば人物についてよく相手に伝わるかを考え、ポスターに盛り込む情報を精選し構成している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が選んだ人物について、Beginning/Body/Endingを意識し、相手に伝わるように情報を整理して伝えようとしている。 ・どんな情報を選択すれば人物についてよく相手に伝わるかを考え、ポスターに盛り込む情報を精選し構成しようとしている。

(4) 単元と生徒

Program 4 から Program 6 までを学習し、その最終ゴールとして Our Project 5 「こんな人になりたい」を定めた。教科書の内容から多少の変更を加え、東京オリンピックで活躍した選手に絞り、ALT に伝えるためにポスターを作成するという場面を設定した。事前に ALT から好きなスポーツなどを話してもらい、どんな内容にすれば ALT が興味をもって読んでくれるのかを考えて題材を選べるようにしていきたい。ALT に紹介する時には、自分が用意したメモを基に、頭の中で構想を組み立てて発表する。そのために、毎時間の帯活動で繰り返し練習を行いたい。最終的には自分が発表した内容を書き起こし、ポスターを作成し、ALT に読んでもらおうと考えている。間違ふことを恐れず、「相手に聞いてもらう、読んでもらう」という「相手意識」を大切に活動継続していきたい。

生徒は互いに会話をしたり、音読をしたりする活動には積極的に取り組む。話すことが好きな生徒が多い反面、言い間違いや書き間違いを気にしてしまう生徒もいる。ALT との授

業では、間違ふことを恐れないこと、相手のことを考えて伝えようとする事、などを繰り返して指導してきた。また、1年次からイメージマップを活用し、話す内容や書く内容を構成することを繰り返し指導してきた。このスキルを生かし、自分の考えや情報をどのような順番で伝えれば良いのか、を考えて相手に伝えられるようにしていきたい。

(5) 単元の指導計画と評価計画 (26時間、本時17/26時間)

次 (時数)	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
1 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7)	Program 4 比較級・最上級の導入 比較級・最上級の導入 同級比較の導入 Program 4-1 本文 Program 4-2 本文 Program 4-3 本文 Word Web 4 /まとめ	※帯活動 インタビュー 内容理解、音読練習 内容理解、音読練習 内容理解、音読練習	(1) ~ (7) 振り返りシートの記述 態
2 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7)	Program 5 how to +動・原の導入 Program 5-1 本文 look/get/become導入 Program 5-2 本文 give/buyなどの導入 Program 5-3 本文 Power-up 3 /まとめ	※帯活動 スキット 内容理解、音読練習 内容理解、音読練習 内容理解、音読練習	(1) ~ (7) 振り返りシートの記述 態
3 (1) (2) (3) (4) (5・6) (7・8)	Program 6 受け身文の導入 受け身文の練習① Program 6-1 本文 受け身の練習② Program 6-2 本文 Program 6-3 本文	※帯活動 好きな物紹介 内容理解、音読練習 内容理解、音読練習 内容理解、音読練習	(1) ~ (8) 振り返りシートの記述 態
4 (1) (2) (3) (4)	Our Project 5 モデル分析、構想 内容決定 発表練習 発表、清書	・モデルのポスター記事を読み、構成を確認する ・班で相談し、どんな記事にするか決める ・マインドマップで構成を考え、内容を精選する ・評価基準を意識し練習する	(1) ~ (4) 振り返りシートの記述 態 内容を精選し、相手に伝えたい情報を取捨選択し構想している。 思・判・表 パフォーマンステスト 態 技 思・判・表

4 本時の展開

(1) ねらい

- ・ スティービー・ワンダーの曲や彼自身の経歴について読み取る技能を身に付けている。
(知識・技能)
- ・ 好きな物紹介で、相手に伝える情報を整理し、端的に伝えている。(思考・判断・表現)
- ・ 間違いを恐れず、積極的に対話活動に取り組もうとしている。
(主体的に学習に取り組む態度)

(2) 展開の構想

帯活動として、好きな物紹介に取り組む。教科書p76を参考に、毎回テーマを決め、好きな物や興味がある物を相手に分かりやすく伝える活動を継続して行う。最終ゴールであるポスター作成に向けて、情報を整理したり、要点をまとめたりする練習を行っていききたい。また、聞き手意識もあわせて指導していききたい。相手の話を聞くとき、相づちを打ったり、反応を返したりといった、「聞く時の姿勢」も指導していく。本文は歌手スティービー・ワンダーに関する対話文である。retellの活動を意識し、概要を捉えた後で詳細を読み取り、繰り返し読みながら英語の表現やリズムに慣れさせたい。

(3) 展開

時間 (分)	・学習活動	○教師の働き掛け	□評価 ○支援 ◇留意点
20	<ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつ ・ 活動①好きな物紹介 好きな物を紹介する時に入れる情報を整理する。必要に応じてメモをする。 メモや情報を参考に1分間でペアに紹介する。 最後に3分間ライティングで書き起こしに挑戦する。	<ul style="list-style-type: none"> ○情報を伝える適切な順番について、考えさせる。 ○相づちを打つなど、聞き手として大切な姿勢を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ☑思Beginning-Body-Endingの構成を基に、情報を整理し伝えている。【ワークシート・観察】 ☑態間違いを恐れず、積極的に対話活動に取り組もうとしている。【観察】 ◇間違いを気にせずたくさん話し、書くよう指導する。
25	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動② 教科書本文理解 概要→詳細 スティービー・ワンダーってどんな人？ 教科書の絵や動画を使用し、スティービー・ワンダーについて知っていることを挙げる。 絵を見ながらリスニング→本文を目で追いながらリスニング その後、リピート音読→ペア音読→対話読み→すらす	<ul style="list-style-type: none"> ○難しい単語には補足を入れ、理解できるようにする。 ○音読練習の様子を見取り、練習が必要な箇所は全体で確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇まず物語の大枠を読み取り、少しずつ詳細な部分を読み取れるように進める。 ◇英語らしい発音で読むところ、注意するところに気を付けて読むようにする。 ☑技スティービー・ワンダーについて書かれた文章を読み、内容をペアに日本語で伝えたり、重要なキーワードを探したりしている。 【観察】

	ら読み→キーワード探し		
5	・振り返り用紙の記入		◇最終ゴールも踏まえて、本時の取組を振り返る。

(4) 評価

- ・ スティービー・ワンダーの曲や彼自身の経歴について読み取る技能を身に付けているか。
(知識・技能)
- ・ 好きな物紹介で、相手に伝える情報を整理し、端的に伝えているか。
(思考・判断・表現)
- ・ 間違いを恐れず、積極的に対話活動に取り組もうとしているか。
(主体的に学習に取り組む態度)

5 実践を振り返って

(1) 授業の実際

① テーマに基づき自分の思いを話す→書く→振り返る帯活動の実践について

Program 6 に入ってから、帯活動として「キャラクターや漫画などを相手に紹介する」という活動を実施した。今回の授業では、2つのキャラクターのうちから1つを選び、それについて紹介する内容を考え、相手に伝える活動とした。まず始めに話す内容を構想し、相手に即興で伝え、その後書き起こしを行い、言えなかった表現について復習するという手順で行った。最終目標を踏まえて、以下の3点を重点的に指導した。

- 1 文章構成は、Beginning→Body→Endingの三段構成とすること。
- 2 Bodyが最も多くなるように分量を考えること。
- 3 Endingでは、自分の意見や感想を入れて締めくくこと。(図1)

★Examples★全体で5文程度(多くなってもOK!)にする。

①This is Doraemon. ←(Beginning)…何を紹介するか

②He is “Nekogata Robot”.

③He has a lot of wonderful tools. (Body)

④For example, Takekopter. …具体的な説明

⑤You can fly in the sky if you use it. ★ここが一番長くなる

⑥I think he is one of the cutest character in Japan. ←(Ending)…まとめ、締めの一言

図1 生徒に提示した例

生徒はこのような活動を昨年から継続して行っており、毎時間の帯活動で無理なく実施することができている。今後の取組として、帯活動であることを生かし、前時の振り返りを行った上で次回の帯活動に取り組めるようにすること、生徒が「言いたいけど言えなかった表現」をより効率良く指導するため、一括して表現集を作成し配布する、などが挙げられる。既習事項を活用し、接続詞等を用いて分かりやすい文章が書けるようになっている生徒や、マインドマップを活用し、まとまった量の文章が書けるようになっている生徒もいるので、このような文章を良い例として提示し、生徒一人一人が自分のライティングを精選していけるようにしたい。(図2)(図3)

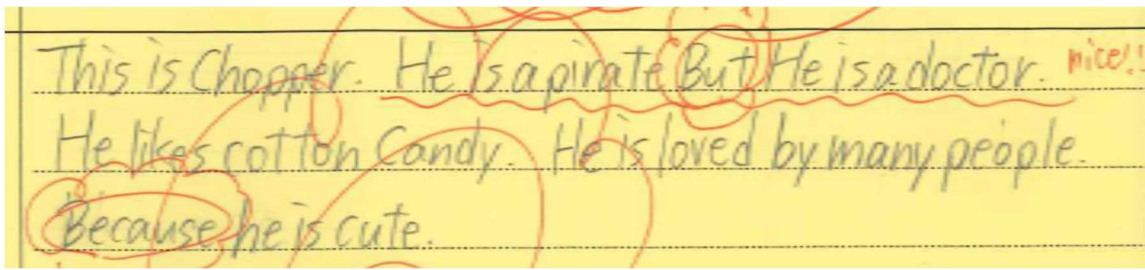


図 2

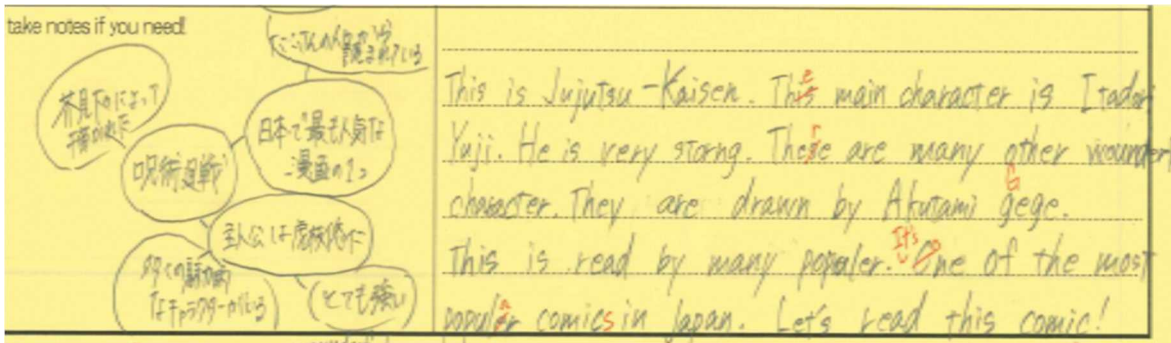


図 3

② 生徒の学習改善・教師の指導改善につながる評価の実施について

前述したように、帯活動を行うことによって、生徒は練習してきたことがパフォーマンステストで生かせるような経験を積むことができる。このように、単元末の目標と関連した単元計画や授業構成は今後も必須であるため、意識して実施していきたい。一方で、毎日の振り返りシートをより効果的に活用していきたい。本研修の公開授業でも、本時の目標と正対した振り返りの記述について話し合う機会があり、自分自身がそれを徹底できていなかったと感じるので、振り返りシートの在り方や使い方について再検討していきたい。

(2) 研究テーマとのかかわり

① 生徒が単元末の自己評価で、内容を精選し、情報を整理して伝えられたと記述した。

本単元では、iPadを用いて情報を調べ、その情報を整理し、伝える順番を考えて発表するという流れで学習を進めた。生徒の単元末の振り返りの中で、「内容の精選」「情報整理」に関する記述の中からいくつか抜粋し分析を行った。

- 発表に向けて、伝え方や自分が言いやすい言い方を考えながら文章を作れた。また、構成も意識して作れた。
- ヘザー先生（ALT）への発表では、構成からしっかり考えられた。
- iPadを使ってオリンピック選手について調べてまとめ、ペアの人と発音を聞き合いながら協力して取り組めたプログラムになった。
- 自分の力で文を作り、分かりやすい内容でヘザー先生に伝えることができた。文を紹介する楽しさと難しさが知れて面白かった。
- どういう文にしたらヘザー先生に伝わりやすいかをよく考えた。

たくさんの情報を整理し、相手にとって分かりやすい構成にして伝えるという練習の流れを通して、その難しさや楽しさを実感できた生徒が多かった。また、構成に加えてアイコンタクトや声のボリュームといった「発表のスキル」の大切さについて言及した生徒も多く、伝わりやすい発表について、内容面とスキル面の両方が重要であることを実感した生徒も多かった。

② パフォーマンステストで、「伝えるべき内容や状況を踏まえ、適切にコミュニケーションを図った」評価項目でA評価の生徒が80%以上になる。

本パフォーマンステストにおいて、「伝えるべき内容や状況を踏まえ、適切にコミュニケーションを図った」姿を、「情報を伝える順番が分かりやすい」「情報量が十分である」「三段構成を用いている」姿と定義付け、ALTに評価をしてもらった。その結果、69名中66名の生徒がA評価だった。要因として挙げられるのは、事前に評価項目を生徒と共有してから実施したことと、事前の練習でその点についてしっかりと準備し練習する時間を取ることができたことであると考えられる。結果として、生徒が自信をもって発表することができた。

「場面や状況を適切に判断し、コミュニケーションを図ろうとする生徒の育成」というテーマのもとで、昨年度から意識して「テキストタイプ」についての指導を継続してきた。テキストの種類を理解し、紹介文、自己紹介など、それぞれのテキストの特徴を踏まえて、適切な表現を用いて英語を使用することを練習してきた。今回は紹介文というテキストであることを念頭に置き、相手に好きな物を紹介するときに必要な表現を重点的に指導することができた。また、「まとまりのある文」を話したり書いたりする上で、文章の三段構成(Beginning-Body-Ending)を指導してきた。中学校学習指導要領解説(外国語編)によれば、「話すこと(発表)」「書くこと」両方に共通して、事実や自分の考え、気持ちを整理すること、まとまりのある内容で話したり書いたりすることについて触れている。今後も授業の様々な場面で、考えや情報などを整理し、それをまとまりのある内容に構成し、表現する活動を繰り返し実施していきたいと考えている。

(3) 今後の課題

① 即興性をより高めていくために

これまでの取組から、生徒は自分で情報や考えを整理し、相手に分かりやすく伝えることを意識することができるようになっている。また、思考ツールを活用し、情報をどのように整理すれば良いか、考えながら英語を話したり書いたりすることができるようになってきている。今後、帯活動での取組を継続し、情報を整理し、アウトプットするという練習を繰り返し行うことで、少しずつ英語を即興的に使うことに対して抵抗感がなくなっていくのではないかと考える。本単元では「話すこと[発表]」の指導が中心であるが、「話すこと[やり取り]」の力を高めていくためにも、このような指導は継続するべきであると考えられる。

② 相手を意識した言語活動について

本研修で設定した単元の最終ゴールは、「東京オリンピックで活躍した選手を選び、選手の情報や功績をALTに伝えるためにポスターを作成する」ことである。ゴールを設定する上で、生徒にとって興味が沸き、挑戦する意欲が生まれるようなゴールを設定することが重要である。本研修の単元末目標は、誰に伝えるのか、どんな内容を伝えるのか、については明確であるが、なぜ伝えるのか、という動機がやや弱く、生徒にとっては取り組みにくいと考える。ALTからの「こんなスポーツが好きだから、このスポーツで活躍した選手の紹介をしてほしい」「オリンピックをテレビで見られなかったから、日本人選手の活躍を教えてほしい」などの働き掛けを行った上で、目的意識を十分にもたせてから実施していきたい。

<参考・引用>

文部科学省(2018) 『中学校学習指導要領解説 外国語編』